

名家連ニュース

令和4年2月27日(日)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX(052)846-5576 NO.852号

【ワクチン接種】

接種困難者への新型コロナウイルスワクチン訪問接種について

名古屋市健康福祉局障害福祉部障害企画課より、2月21日付で障害者団体宛に表題の連絡がありましたのでお知らせいたします。

ワクチンの接種を希望しているにもかかわらず、個別医療機関・集団接種会場・大規模接種会場での接種が困難な高齢者や障害者の方向けに訪問接種のご案内をいたします。

対象者

1. 寝たきりなどで自宅療養していて、自力での外出・通院ができない方のうち、訪問診療医（主治医）による接種を受けられない市民の方
2. その他、主治医による接種を受けられず、障害等のために集団接種会場における接種が困難な市民の方

※介助を受けて接種会場で接種できる方は対象になりません。

※施設入所者は対象になりません。

※主治医がいる方は、ワクチン接種について、事前に主治医と相談し許可を得てください。



支援内容

聞き取りを実施させていただき、要件を満たしている場合は、訪問接種の相談に応じていただける医療機関から連絡させていただきます。

1. 受付先

新型コロナウイルス感染症対策室 (TEL:052-972-4389 FAX:052-972-4376)

2. 受付時間

月曜日から金曜日まで（祝休日を除く） 午前8時45分から午後5時30分まで

3. 受付期間

令和4年2月21日から令和4年9月30日まで

注意事項

- 個々の事情により、お受けできない場合がございます。今回の相談をもって、接種医の確保をお約束できるものではないことをご了承ください。
- 連絡先等を医療機関にお伝えすることがありますので、ご了承ください。
- 被接種者以外の方が申込をされる場合、本人のご了承を得たうえで相談をお願いいたします。
- 使用するワクチンの種類は、ご希望に添えない場合があることをご了承ください。

問い合わせ先

健康福祉局 新型コロナウイルス感染症対策部 新型コロナウイルス感染症対策室 新型コロナウイルス感染症対策担当

電話番号：052-972-4389 ファックス番号：052-972-4376



❖ 惨事ストレスという言葉をご存知ですか？ ❖

パンデミック、未知のウイルス、コロナ危機の対応で、心身ともに疲弊している方が多くいることと思います。東日本大震災の支援に入った方々の中に、支援から帰ってきて、涙が止まらないとか、うつ傾向などのケースが報告されました。そのようなことを惨事ストレスということ、大阪障害者センターが作ったパンフレットで知りました。

今回のコロナ対応も、災害時支援と共通する部分があり、心のケアが必要な状況が生まれています。初めてのパンデミックの中、終りの見えない不安と緊張が続く対応に、様々な心身の症状が出ることは当然です。決して、自分を責めることなく心身の状況を整えることを第一に考えていきましょう。

惨事ストレスとは

- ・惨状の体験・目撃、被災者・遺族への関わり、遺体への関わりがあった方
- ・余震等の二次災害の危険性のなかで支援された方
- ・現地での指揮系統の混乱があった方
- ・睡眠や休憩が十分にとれず過重労働となった方は、この惨事ストレスにおかれることがあります。もちろん、過酷な状況においても、人はその環境に適応する能力を持っています。しかし、大惨事の場合には、そのストレスは甚大です。そのため、本来の適応能力では対処しきれないまでの衝撃を受けることがあるのです。

惨事ストレスは「異常事態に対する正常な反応」で、誰にでも起こりうる反応です。そこで、みなさんに反応がでた時には

① 反応が出た場合でも、多くの場合は一時的で、次第に収まり完全に回復するものであることを理解してください。

② しかし、その影響が長引く時には、

- ・ストレスを受けた際の心身の反応を理解する必要があります。
- ・反応が長引く場合には、なるべく早く周囲に相談するのが望ましいです。



反応とは

心の変化：気分の高ぶり、イライラ、怒り、憤り、不安、無念さ、無力感、自分を責める、憂うつになる、現実感がなくなる、時間の感覚がなくなる。(強度) 繰り返し思い出してしまう、感情が麻痺する、仕事が手につかなくなる、他人と関わりたくなる

体の変化：不眠、悪夢、動悸、立ちくらみ、発汗、呼吸困難、消化器症状、音に過剰に驚く

業務への影響：業務に過度に没頭する、思考力の低下、集中力の低下、作業能率の低下

行動への影響：酒が増える、タバコが増える、危険を顧みなくなる

遺体関連業務有の反応：気持ち悪さ、嫌悪感、遺体・遺留品に感情移入する、におい刺激への反応、吐気、嘔吐、食欲低下、遺体を連想させる食物が食べられない

こうしたところの反応は、当然の反応であり、恥ずかしいことではありません。

誰もが、凄惨な被害現場での支援に携わることにより経験する反応です。

作成：東日本大震災大阪障害者緊急対策連絡会

監修：大阪障害者センターメンタルヘルス研究会

資料提供者：愛知障害フォーラム事務局（社会福祉法人さくらんぼの会 大野健志理事）